

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

183号

2025. 3



Contents

1 2024年度 第3回 理事会報告	報告者 浅井総司
2 協議会交流の日 森林公園	報告者 浅井聡司
3 身近な雑草を見分ける 生物分類・生態研修会	報告者 瀧崎吉伸
4 庄内川 河原の植物	報告書 内海勇夫
5 アンデスの東—アンデス	報告者 中西 正
6 総会案内および総会のご案内	報告者 浅井総司

今号の表紙 コセリバオウレン 内海勇夫 瀬戸市 にて

2024 年度 第 3 回 理事会報告

2024. 11. 24

出席 浅井 三田 永田 高松 瀧崎 滝田 榊原 星野 河江 平松

活動報告

協議会交流の日 テーマ 自然観察会・ワークショップ・座談会 担当 浅井

日時 10 月 19 日(土) 10:00~15:30 場所 森林公園展示館(尾張旭市)

生物分類講演会 テーマ 日本の外来植物 講師 瀧崎吉伸

日時 11 月 24 日(日) 13:00~16:30 場所 豊橋市民センター市民活動プラザ

愛知県海岸保全基本計画検討委員会 2/16 出席者 瀧崎

第 54 回愛知県野生生物保護実績発表大会 担当 浅井

日時 8 月 1 日(木) 10:30~15:00 場所 刈谷市産業振興センター

SDG's エキスポ 2024 10/10. 11. 12 場所 愛知県国際展示場 担当 森拓矢

来年度の課題

自然観察指導員講習会の開催予定

日時 第 1 希望 10 月 25 日(土)26 日 第 2 希望 11 月 15 日(土)16 日(日)

会場 あいち健康の森

新人研修会および協議会交流の日を一本化 担当 浅井

日時 2025 年 12 月 21 日頃 指導員講習会の一ヶ月後を予定

場所 東三河 ふるさと公園(愛知県豊川市御油町滝ヶ入 11-2)

総会予定 2025 年 3 月 20 日(木曜日) 日時未定 会場 未定 (仮) 日本ガイシホール

総会後の企画 植物の講演会 岡崎純子 大阪教育大学

動物の講演会 子安和宏 愛知学院大学歯学部

長谷川(名古屋産業大) 藤井(岡崎人間環境大) 等 浅井に一任

あいちの自然観察会については、継続する方向で検討

広報について

協議会ニュース デジタル配信を検討

協議会ニュース 183 号の原稿依頼

生物分類講演会(瀧崎) 協議会交流の日(浅井) 総会 講演会の案内(浅井)等

その他

2025 年度の組織(敬称略) 原案

会長: 浅井(退任)→永田 副会長: 三田、永田→未定 事務局: 浅井→未定

会計: 永田→未定 保険担当 編集委員 内海、馬場 編集校正委員 岡田雅子

協議会交流の日

2024. 10. 19 森林公園(尾張旭市)にて

参加者 27名うち新人会員12名(尾張9、名古屋8、知多5、西三河4、協議会1)

午前中は、森林公園自然観察会(会長 出口さん)の協力を得て、自然観察会が行われた。開会式では、高橋征夫さんの威勢の良い声が、参加者のみなさんを笑いの渦に巻き込み、和やかな雰囲気が始まった。観察会のテーマは、湿地の植物の観察である。展示館から、水生園に行き、A湿地とF湿地をめぐりコースだ。

シラタマホシクサの咲き終わった湿地には、キセルアザミ(桃)、サワシロギク(白から桃)、サワギキョウ(紫)の花が彩りを添え、根元にはミミカクグサ(黄)がひっそりと咲いた。この湿地の特徴は、東海丘陵要素のウンヌケを見られることだ。

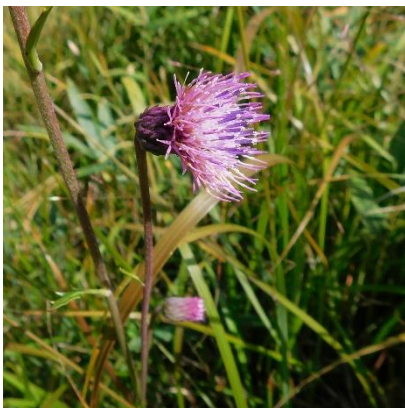
【観察できた生き物】ヌマダイコン、サクラタデ、ボントクタデ、アキノギンリョソウ、シキザクラ、シキミ、オギノツメ(実)、コウヤボウキ、ヒヨドリバナ、スズカアザミ、**キセルアザミ**、**サワシロギク**、サワヒヨドリ、**ウンヌケ**、ケシンジュガヤ、ウメバチソウ、ヤブタバコ、ヤノネグサ、**シラタマホシクサ**、イトイヌノヒゲ、ホソバリンドウ、アサギマダラ(チョウ)

午後からは、展示館の会議室でワークショップと座談会を行った。

ワークショップでは出逢いのゲームで、参加者同士が参加者の名前と顔と声を覚えて、その後、5、6名のグループに分かれて、流木や貝、火山岩やキノコなどの自然物を手にとって、参加者の自然に対する思いを語った。参加者が代わる代わる話し手と聞き手に代わる代わるなることで、和やかな雰囲気の中で会話を楽しんだ。

座談会では高松さんから来年の指導員講習会での協力の呼びかけ、山田さんから協議会の理事への勧誘の発言があった。また西三河支部の手嶋さんから、草だらけの会(山原さんが30年続けられた)を引き継いだ話があった。

この会を取り仕切った会長からは、手作りの栗きんとん、記念品としてのドングリトトロが贈呈された。協議会交流の日に参加していただいた皆さんと楽しい一時を共有できたことに、心から感謝を申し上げます。



キセルアザミ



座談会

身近な雑草を見分けるー生物分類・生態研修会ー

日時 令和6年11月24日(土)10:00~12:30 場所 豊橋市民活動センター(瀧崎吉伸)

参加者は19名。豊橋市での開催と言うこともあって、尾張からの参加者は少なかった。そのために、名古屋支部の総会の場合でも、再度同じ話をという依頼を滝田氏からいただいた。

さて、内容であるが、我々がすでにわかったつもりでいるごくごく身近な植物に、よく似た複数種が混在している現状をお話しさせていただいた。中にはエノコログサのように、植物体全体が緑色で、やや短めの穂の芒がすべて長い、ハマエノコロにつながる在来系統(京都府立大学の大迫氏によるVG)と、茎



エノコログサ



ネコジャラシ

の基部の鞘が赤紫色に色づき、穂が長くて先の方の芒が短くなる、おそらくユーラシア大陸由来の移入系統(大迫氏によるVR)が存在するものもある。移入系統の物は栄養状態が良いと、一つの総に小穂が複数着き、本来エノコログサの特徴とされる小穂が一つという性質が失われてしまう。令和6年6月2日に豊橋市民活動センターの大ホールで初開催された新たな学会「地域フロラ談話会」でも報告し、在来系統をエノコログサ、

移入系統をネコジャラシ、小穂が複数着

いてオオエノコロと誤認される形をドラネコジャラシと呼んではどうかと瀧崎・芹沢が提案した。エノコログサの仲間では、キンエノコロと多くの方が呼んでいる植物に、在来系統のキンエノコロとコツブキンエノコロ、移入系統のホナガキンエノコロ(ウスギキンエノコロ)があり、キンエノコロは愛知県内では茶臼山など標高の高いところにしか見られないこともお話しした。その他にもメヒシバの仲間(メヒシバ・コメヒシバ・アキメヒシバ・キタメヒシバ)、愛知県の低地からスス

キが姿を消している話、スズメノヒエ類、コニシキソウの仲間(ニシキソウ、コニシキソウ、ハイニシキソウ、アレチニシキソウ、シンチクニシキソウなど)、ニワゼキショウの仲間(ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、セッカニワゼキショウ、ヒメニワゼキショウなどとそれらの雑種)、ハギの仲間(ツクシハギ、ヤマハギ、マルバハギなど)、チチコグサモドキの仲間(チチコグサモドキ、タチチチコグサ、キタウラジロチチコグサ、ミナミウラジロチチコグサ、キヅキチチコグサ)など、近年良く出会う身近な植物たちについてお話しした。



ドラネコジャラシ

アンデスの東—アルゼンチン

中西 正

ブラジルからウルグアイに着いたのは 2017 年 1 月 25 日、翌日がアルゼンチンだった。南米では、ハ



ウルグアイの牧場

ドソンの本の中にあるパンパの風景を少しでも見たかった。「パンパにある叢林の多くは消し去った過去の遺物」という事は、この地方も基本的には木が生える地域だったのだろうか。それらを焼き払って草原にしたとも考えられる。ダーウィンの中には「この地方を騎行するときには、一般に平原に火を放つ習慣がある」とある。ただ、この行為が、まだ木があった時代の話か、草地になってからの話かは判断できない。ハドソンの時代には「手に入る唯一の薪はアザミの茎」

と言っているのも木の薪は手に入らなかったのだろう。また、ダーウィンも「チョウセンアザミ一種の植物が在来のものを退けてこれほど大規模に侵略を遂げた記録があるか」とチョウセンアザミの増加を記録している。それほど多くなったはずのチョウセンアザミも今回は見かけなかった。



空からのアルゼンチン

この地方では、木が少ない中でも、家の周りには木陰になるような木を植えていた。「日よけの木といえはニセアカシアとセンダンの二つ、他にシンジュ・クワ」とあるが、今回訪れたウルグアイの牧場の中にもニセアカシア・センダン・クワは植わっていた。しかし大きく育っていたのはユーカリだった。ただ場所によってはハドソンが言うように「プラタ川河口、風景ははなはだ面白くない。心を浮き立たす風情を与える一軒の家も見えず、木さえ生えていない」とか、「リ

オ・ニグロ、この河口付近の地域は極度にみすばらしい」「単調な均一を破る一株の灌木も樹木もない」というような状況だったようだ。自然の変化と言えは「ウシ・ウマ・ヒツジなど、無数の群が植物の全景観を変えるばかりでなく、グアナコ・シカ・ダチョウなどをほとんど駆逐した」というような観点をダーウィンは持っていた。「広大な平原が私たちの予想に反して全く壮大な感じを与えない」というが、広すぎて気が抜けてしまいそうなのがパタゴニアのあちこちにあった。広さに憂鬱を感じる人もいるのだろうか「平原に親しみの薄い人たちに与えるこの憂うつな感じは、主として生物が少ないこととこの平原を支配する深い静寂による」というようにハドソンは言っている。

今回の観察でもずっと広がった平原には広さを感じなかった。パンパスの姿を垣間見ようとしたが、その断片すら見るができなかった。そもそも、パンパスの原風景が構築できなかった。『ラ・プラタの博物学者』の中でハドソンが「パンパスほどあらわに文明が異様な傷跡を刻み込んだ地域は地上にいまだかつてなかった」とあるように、完膚なきまでに改変されてしまったことが原因と考えていいのだろうか。その改変には牧草の種に混じって入ってきたヨーロッパからの帰化植物も関係している。

ハドソン『ラ・プラタの博物学者』『パタゴニア流浪の日々』『はるかな国、とおい国』ダーウィン『ビーグル号航海記』（上）（中）

庄内川 河原の植物

尾張支部 内海勇夫

春日井市と名古屋守山区の間を通る庄内川の堤防には、多くの植物がみられます。

今回は庄内川で花の咲いている双子葉類を中心に、外来種の割合を調べました。庄内川の高蔵寺運動場はきれいに整えられていますが、川原には葦などが密集し、草原の中に入ることもさへむつかしく、すべてを調査することはできませんでした。そのため、高蔵寺運動場周辺と、川に近い川原を中心に調査しました。

尚、観察会は四月と十月に実施しましたが、五～九月に咲く植物も含め帰化植物の割合を調査しました。

春の植物は背の低いものから、咲き始めたようです。トウカイタンポポ・オオジシバリ・ニガナ・オオキンケイギク・オオイヌノフグリ・シロツメグサ・カラスノエンドウ・トウバナ・マンテマなどです。



トウカイタンポポ

秋の植物は、つる植物が多く見られました。ガガイモ・イヌタデ・セイタカアワダチソウ・コセンダングサ・シャクチリソバ

ヤナギタデ・キバナコスモス・クズ・ケアリタソウ・ヒロハホウキギク・ノゲイトウ・マメアサガオなどです。



シャクチリソバ

春から秋にかけて、外来種の割合は五八%、約6割が外来種で覆われていました。

高蔵寺運動場広場は、後に移植された木々が植えられ、川原の葦はブルドーザーによって掘り返され、運動広場の草刈りなど、人の手がかかり入っていると思われます。また庄内川には、工場からの排水が入りこみ、川岸の石が乾燥し白くなっています。けれども、魚は泳いでいたので少し安心です。

最後に、観察会に参加していただいた参加者の方々には、多くの知識を教えてくださいました。植物の名前はもちろんのこと、庄内川付近にあった垂炭坑のことや、川原にある石がどのようにしてこの川原までやってきたかなど、有意義な観察会になりました。

総会および講演会のご案内

平素より、協議会の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。会員の皆様の支えがあり、この会をなんとか存続させることができました。心より感謝を申し上げます。

さて、来年度に向けて下記のように総会と講演会を開催いたします。会員の皆様には、ご多忙のこととは存じあげますが、ぜひこの機会に皆様とお顔を合わせ、来年度の会の活動と会のあり方について、忌憚のないご意見をお聞かせください。

最後に、皆様方にはお体ご自愛のうえ息の長い観察会を続けて行かれることをお祈りしています。協議会も頑張りますので、今後ともよろしく願いいたします。

記

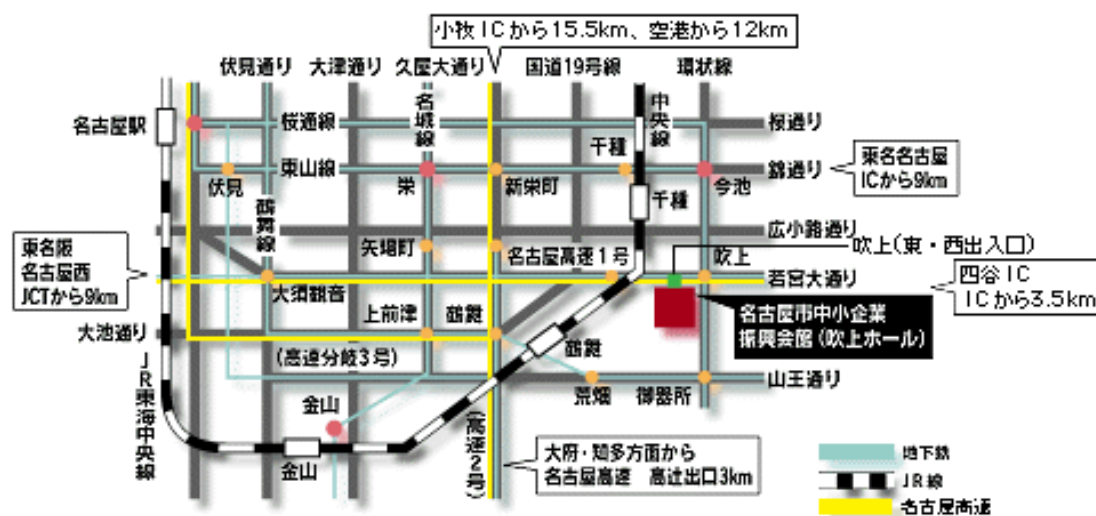
日時 令和7年3月20日(木・祝) 13:00～開場・受付 16:30 閉場

総会 13:30～14:30 講演会 14:40～16:15

場所 名古屋市中企業振興会館(吹上ホール) 4F 第7会議室 (定員 120 人)

名古屋市中千種区吹上二丁目6-3 TEL 052-735-2111

地下鉄桜通線吹上駅(5番出口)から徒歩約5分



講演会

講師 岡崎 純子 氏 大阪教育大学特任教授(植物学専攻)

演題 「身近な植物の繁殖戦略について・植物よもやま話」(仮題)

講師プロフィール

山登りが好きで、植物分類学の道に入りました。高山植物の仲間を研究していた頃は、涼しい所での調査でしたが、繁殖生物学に興味を持っからはかんかん照りの中、長靴で歩き回る調査に代わりました。沖縄が好きで毎年出かけますが、ここでも長靴を履いて、海も山も歩き回っています。

ちなみに大学では、浅井会長と同じ研究室でした。



今回は、ちょっと昔の協議会ニュースを探してみました。

協議会ニュース 第9号、表紙の一部です。昭和59年9月発行、まだ写真を載せることは難しい時期のようです。今は小学生が、観察時にコンピュータをもって写真を撮る時代になりました。どちらがいいのでしょうか・・・。



<編集後記>

協議会ニュース 183号

今年1年間、協議会ニュースの作成にあたり、皆様には原稿のお願いやその後の編集作業などにご協力いただきありがとうございました。中西さんのアンデスの旅や瀧崎さんの生物分類・生態研修会などを拝見し、見るだけでなく深く観察することが大切だと思いました。しかし、御二方のような調査には自分としては難しく思われ、小牧市自然環境観察人に登録し、小牧市のマメナシの里の草刈りや児童クラブに参加しています。子供たちとの観察会は、いろいろなことを見つける子供たちと一緒に活動し、いい経験をしています。

理事会では、郵便料金の値上げや資金の使い方などで検討中です。今後どのようになるかは総会で話があると思います。ご参加いただければと思います。

内海勇夫

E-mail : qelyof2337@yahoo.co.jp

編集委員	内海勇夫 馬場隆之
編集校正委員	岡田 保

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 浅井聡司

〒480-1178 長久手丁子田 17-62 TEL/FAX : 052-701-1552

sky-asai@earth.ocn.ne.jp Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)